

## 令和7年度第1回 安芸太田町総合教育会議 会議録

招集年月日	令和7年9月22日（月）	
招集場所	川・森・文化・交流センター3階 大会議室	
開閉会日時	開会	令和7年9月22日（月）午後13時00分
	閉会	令和7年9月22日（月）午後13時58分
出席・欠席委員	出席委員	橋本博明 大野正人、清胤祐子、池野博文、河本千絵、小田純子
	欠席委員	
職務により会議に出席した者	教育委員会事務局員 教育次長 長尾 航治 教育課長 清水 裕之 同課 主幹 小坂 法美 同課 主幹 佐々木 裕美  庶務 総務課長 二見 重幸 同課課長補佐 淺田 敬文 同課 係長 川中 志保子	
協議事項	協議 1 教育大綱の進捗状況	

## 議事録

(午後 13 時 00 分 開会)

### ○淺田課長補佐

令和 7 年度第 1 回の安芸太田町総合教育会議を始めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、開会にあたりまして町長から挨拶をお願いいたします。

### ○橋本町長

改めまして、皆さん、こんにちは。町長の橋本博明でございます。総合教育会議ということで、お時間を頂戴いたしました、皆さん本当にありがとうございます。また、日頃から皆様におかれましては、それぞれのお立場で本町の教育の推進に、ご尽力いただいていることにも重ねて感謝を申し上げたいと思っております。また、この度の総合教育会議ですが、もうちょっと早く開催できればなと思いながらも、今年は参議院選挙等々もありまして、ちょっとこのタイミングになったことも併せてお詫びを申し上げたいと思っております。その上で、今日は後程の協議事項にもあげさせていただきましたが、私も随分気になってたんですけども、教育大綱まとめさせていただいて一年ちょっと経っているわけでございますが、その具体的な進捗状況あるいは、そういう中で、委員の皆さん方がどういう風に受け止められるのかなっていうのを、ぜひ、お聞きしたいなということで少し私の方からのテーマとして出させていただきました。後程、忌憚のないご意見を頂きながら、また、たまたま今年このタイミングというのは、今年度のちょうど中間地点ですね、折り返しにこれからなるわけでございますので、今日皆さんここで議論していただいたこと、また現場にフィードバックをしていただき、町長部局としては、もしかしたら、来年度の予算編成に向けてやっぱり色々考えていかなければいけないと思っております。改めて忌憚のないご意見をいただければというふうに思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

### ○淺田課長補佐

ありがとうございました。それでは、教育長から挨拶をお願いいたします。

### ○大野教育長

こんにちは。本当に今日は、お忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、また、町長におかれましては総合教育会議を開いていただきまして、本当にありがとうございます。というのも、教育委員会というのは、独立した組織ということで、どうしても、なかなか教育委員会の中だけで進んでいくことが多いくて、いろんな支障をきたしたという経緯がございます。大きなじめの事件で、児童生徒が亡くなるという事があった際にも、なかなか教育委員会だけで解決できないことがあり、そういう経緯を踏まえて、出来たのがこの総合教育会議であるということはご承知の通りで。そういうこともあります、何かあった時に総合教育会議というのが開かれるというのが全国の各自治体です。安芸太田町においては、町長が今回、重大な事態は無いんですけど、教育大綱の進捗状況あるいは、教育の姿ということと一緒に考えていきましょうということで、聞いてくださっております。会を大切にして行きたいと思いますので、宜しくお願ひ致します。

### ○二見総務課長

失礼いたします。今回令和 7 年度に入りました、4 月から総務課長を命ぜられました、二見と申しま

す。事務局担当させていただきます、よろしくお願ひいたします。

○淺田課長補佐

それでは、新しい総務課の事務局と教育課の皆さんになりますけど、ここからは総合教育会議の協議事項に入らせていただきたいと思います。それでは、協議事項に入ります前に、今日このあと、教育委員会会議も開催されるとお聞きしておりますので、時間を午後2時半までの目標で開催させていただきたいと思います。それからあともう一つ、この総合教育会議は総合教育会議設置及び運営規則に基づいて開催しておりますで、会議の成立につきましては構成員の出席の過半数をもって成立するとありますので、町長、教育長、教育委員のみなさん計6名の出席を持って過半数をもって成立になりますので、ご報告させていただきます。

それでは、改めまして協議事項の方に入らせていただきます。先ほども町長の方から町長の方が申し上げましたとおり、これまでの昨年度総合教育会議を開催して、教育大綱策定に至りました。その年度の後半に教育委員会の方で、教育振興基本計画を策定されて、それを持って現在に至っております。今日は進捗状況という形で協議事項とさせていただいておりますけれども、今日は意見交換という形になろうかと思います。つきましては、この議事の進行について町長へお願ひしたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、よろしくお願ひいたします。

○橋本町長

それじゃあ、意見交換をベースに考えていきたいと思っているんですが、その前に改めて教育委員の任期が来ておられた方で河本委員に引き続きお願いをさせて頂いておりますが、引き続きよろしくお願ひします。

それでは、改めて、今も話をした通りでございます。教育大綱を取りまとめてさせていただいたて具体化を是非、お願いをしたいということで、これまでできているのではないかと思っております。途中より具体化を図るということで、基本計画をたてて頂いたと思いながらも、あの、皆さんも色々と現場のことも含めてご承知なのではないかなと思っておりますので、この計画についてどうこうというよりは、現実に進めている状況をみなさんにお聞かせて頂きたいと思っております。

最初に話をすると、私自身聞いているところで言うと、最近やっぱり森のようちえんに皆さんかなり園、所でも覚えていただけると言うふうに聞いております。なんというか、いつの間にかと言うとあれですけどあのキャッチフレーズというんですかね、名前?安芸太田町版、森のようちえんの名前まで決めていたただいて、なんかすごくネーミングセンスも含めていいなと思いながら、それ、きっかけじゃないと思いながらも、本当今年に入って色々そんな話を聞くもんですから、大変ありがたいなと思っておりますが、そこら辺から皆さんの方で、受けとめなり、ご意見なり、いただければなと思いますが、いかがでしょうか。

小田委員

保育所の保護者の方からは、週1回外で活動できるっていうのは、子供にとってもすごい有意義でありがたいという話を聞いてますよね。このまま引き続きやっていただければと思います。で、来年には認定が出来るような形ですか。

○長尾教育次長

認証の事ですよね。認証の件につきましては、先月報告をできなかつたかも知れませんが一応あの全園所、認定の申請を行わさせて頂いております。この申請の結果というのがまた出てくるかと思いますが、一応今のところは、当初はですね一園もしくは所の方が、認証の制度まずは、とっていこうと言う動きでございましたけれども、一応今現在では、全園所が申請をしております。

○橋本町長

親御さんが、喜ぶもうちょっとなんかこう例えばどんなことで喜んでもらえるとか、なんかありますか。

○小田委員

外での食事を取れるっていうこと、お昼をとるあの体験っていうのも非常に、なかなかできないことなんで有意義だし同じところでの一年を通して自然、外で、保育園の中だけじゃなくて、外で自然に囲まれて遊ぶ体験っていうのがあるというふうに伺っております。

○橋本町長

昼飯はどうされてますかね。

○小田委員

保育所の方が届けて、給食をお弁当に詰めて届けて、少人数だからできることなんで、すごいありがたいと毎回その家で作って持つて行くのは大変なんで。

○橋本町長

そうですよね。前は確か、筒賀は、月1回おにぎりを作つていただく日を設定頂いて、あれが例えば今、週一ぐらいまで広がつたという理解でいいですかね。週一だとちょっと弁当作つていただくと実は結構負担かなと思ったんですが、それはいかがでしょうか。

○大野教育長

園所によって、保護者の方とか地域の方とか、関わり合つて状況に応じてやつています。

○清胤委員

朝、毎日散歩しているんですけど、遅めに出た時に、保育者の方々が先生と一緒に、修道保育所は本当に人数少なくなっているんですけど、河原に下りてらしたんですよ。修道小学校の前の西宗川って川に今頃、家庭単位で中々河原に遊びに行くという事が、難しくなっている時代で、熊のこととか、猪のこととか、鳥害獸のことがあるんで、やっぱり大人数の先生方がきちんと準備された上で、連れて行かれて安全安心に遊んでらっしゃる姿を、地域の方が子どもを見る機会がすごく少なくなっているので、私達だけじゃなく主人と私だけでなくて周りの人も出てきたら、元気に遊んでいるね。とか言って声かけをしたりとか、子ども達だけでなく地域のお年寄りや皆さんにとつても、とってもふさわしい光景が戻ってきたというか、小学校の登校でスクールバス対応が増えてますので、子ども達が歩いていたり、遊んでいたりするのを見ることが少なくなったんです。そうやって連れ出していただくと、子ども達のみならず、地域も元気になっていくような気がします。

### ○河本委員

外に出ていくこと、すごく素晴らしいで、昔、子ども達よく、川とかで遊んでいたんですけど、最近は、川の状況が良くなくて、川の管轄は町ではないと思いますが、保護者同伴でうちの事務所の前とかで遊ばれている姿を見るんですが、昔はもうちょっとこう、河原があって、どういうふうに下りたら、足を取られないとか、砂浜の歩き方とか石の歩き方とともに子ども達の中で、学べてたんですけど、中々最近そういう状況ないので、是非その辺の整備をですね、国とかに働きかけていただいて、少しずつ、ジャングル化している所とかは、河川の整備されるんですけど、子ども達が身近に川を感じられるような状況、小学生であれば、少しあは川に近づけるかもしれません、だけど、どんどんそれが難しくなってきてているのが、とても残念で、せっかく自然があって目の前の自然を見ながら、危ないから遊んでは駄目というのも淋しいので、せっかくなので、町長さんのお力で、整備の方お願いできたら、そういう保育園とかの活動ももっと、先生達大変だと思いますけど、範囲が広がるかなというのは常に思っています。

### ○橋本町長

本当、子ども達の為だけではないんですけど、川にも関心を持ってもらいたいなということで、何とかならないかなと思っているんですが、今おっしゃったところで言うと確かに管轄が無理なんですね。お願いする分には、もちろんただですから、行きたいなと思いながら、やっぱり全部を綺麗にっていうのは難しいとすると、とりわけ子供さんが遊んでいただけるような場所っていうのはある程度、特定をして行った方がむしろ進め易いかなというのはちょっと感じております。全部を綺麗にというのがなかなか難しいのと、ここだけは森のようちえんのフィールドとしても使いたいので、というような言い方がいいのかなと思います。特定の場所をそれぞれ作るということで。

### ○清胤委員

手つかずの自然というのは、危ないんですよね。だからおっしゃったように、川遊びができるピンポイント、保育所の前あたりに何点か作っていただくとか、森もそうですけれども、中に入って行く時に、ここは入って良いよ。と、ちょっと整備しているところがあつたら本当にありがたいと思います。よろしくお願いします。

### ○橋本町長

もうだいたい各園で、それぞれ行先っていうのがだいたい固まっていたりするんですかね。色々ですか。

### ○長尾教育次長

あの今、園所の方ではですね、やっぱり自分のところのフィールドというのをちょっとこう作り始めてきております。特に限定はしてないんですけど、例えば、加計認定こども園あさひですね。ここは、月ヶ瀬公園直下の滝山川、少し深いので心配なんですけど、かなり園の方も気を使ってですね、かなりの人数での見守りをしながら、遊ばせている状況です。修道の方は、今あのご紹介あった通り西宗川の方で、筒賀は、龍頭峡がメインフレームなっています。で、問題は戸河内ですね。川が今、河本委員からあつたんですが、太田川がほどなく近くにあるんですが、全く降りられる状態じゃないです。葦か

生えまくって、もうどうにもならんっていうことで、認定こども園もメインフィールドは、今、龍頭峡の方に行ってもらっていると言うような状況です。川に関してはそんな感じです。今の時期、夏なので、川の方がメインで遊ぶところと言うことですね、やらしてもらっているような状況です。

#### ○橋本町長

確かに手つかずの自然は、そんなに簡単には入れないんですよね。そういう意味では、自然であると言いながらもやっぱり管理が行き届いていることが必要なのか、今日またちょっと場所も教えていただいたこともあり、またご相談させてもらったならと思います。

一方で、少し話がありました、先生方のご負担というのはどういうふうに感じておられますか。

#### ○河本委員

あんまり聞きませんよね。負担というのは。多分言えないんじゃないですか。10秒前は見えなくて、さあ遊ぼうっていう時にはとても楽しく出来る状況にしていただいた上でなので、相当大変なんじゃないかと。

#### ○大野教育長

この前、あさひの園長と話をする機会があったんですけども、その時に、フィールドへ出たいということで、最初は、園長の方から「出ていこうや」って言うような形で話をしていたということなんですけれども、行ってみると子供が思いの他というと、言い方に語弊があるかもしれないんですけど、すごく輝いていると、すごく楽しそうに見えるということがありました、保護者の方にも参観で見ていただいたらしいんですけど、保護者の方たちもすごく喜んでおられたということですね、そういう姿を見ていく中で、実は予定にはなかったんだけども、「また明日も見ていいですか」みたいな形で先生の方から、出て行くという姿勢が見られましたというふうな形で園長も喜んだというような次第です。

本当に、子供たちは喜ぶと思います。なぜかというと、この前、魚を取りに行ってるんですけど、ペットボトルの中でこう仕掛けを作つて入れてるんですよね。その中にわんさか魚が入るんですよ。鮎なんかも入るらしいですよ。そういうのを体験するとそれは子供達は惹かれますよね。そういう姿を見た保護者の方って、これならっていうふうに思いますよね。子供たちがその中で色々な遊びを見つけるそうです。流れの中で流れに乗つて行く遊びも自分たちで見つけて、それを先生方は子供が流れている姿をみたら、すぐ止めるそうなんです。止めるんですけど、園長の判断でこれは大丈夫だなという形で先生方に「ちょっと注意を待とうか。」という話をしたら、そしたら、どんどん子どもたちが遊びを見つけていく。そして、どんどんのめり込んでいくというような姿を見ることができた。自分達で危険な事は分かっているというのは、そういうようなところで、本当に外に出ることによって、お互い分かつてきましたなという話をされていました。

アンケートを取られたそうなんです。その時に、実は園長先生の方も「こんな危ない事をさせて」みたいなね、そんなアンケートが返ってくるのをすごく恐れられたみたいなんんですけど、アンケート結果を見てみると「貴重な体験をさせてもらった。」、「子供たち本当に笑顔が良かったです。」みたいなことが多かったということです。で、特に自由記述がやっぱり多かったみたいです。「普段こういう姿見たことないのに」というような意見も。

普通、秋にできることって少ないじゃないですか。それがこの秋に出来る事がすごく多かったということで、園長先生も喜んでおられました。先程もありましたけど、フィールドを探していくのも、なか

なか難しいなというようなことは感じておられるということです。

○橋本町長

さっき、おっしゃったその保護者の皆さんにも見ていただく機会を作っていただけているんですかね。

○大野教育長

あさひの方は、参観日を設けて、その時に。保護者の方も一緒にやってくださるっていうか。

○橋本町長

安全確保でもそろは言つても大変だと思いながら、森のようちえんをやつてゐる方から聞いたんですが逆にその自然に出て行くときにはその教材を自分で確保する必要はないで、自然が教材じゃないですか、だから出てる方が楽だったみたいな話を聞くんです。まあ、そろは言つても大変だらうと思うんで。引き続きそこらへんのですね、先生方の負担ってやっぱり、どうしてもらつと気になるわけですからあのフォローしていただければなと思ひながらですね。

○河本委員

授業参観とかだったら、大人の目がいっぱいあるし、たぶん我が子のことはずっと見てるし。危険が回避出来て普段よりもダイナミックなことができたりするかもしれないですね。

○清胤委員

大人の目は多いほどいいですよね。それから大自然じゃないんですけど、お寺がいっぱいありますしょ。安芸太田町には。境内はかなり自然溢れる環境なので、あのもう整備されてますし、よかつたら使っていただいて、修道保育所は月に1辺くらい遊びに来てくれるんですよ。私たちが忙しいもんだから居なくとももう自由にどうぞって。まあそれなりに整備しておりますので、大自然の原野に踏み込むよりは安全かなと思いますから、どうでしょうか。そういう所を作ってください。

○橋本町長

お寺も独特な雰囲気がありますね。それはそれでなんかまあ、ちょっと難しいところももしかしたらあるかもしれません、まあ一つのフィールドとしてあんまり街中では味わえないことなのかもしれませんし、ありがとうございます。

○池野委員

私があの保育所の子達から一番遠い存在だらうと思います。容姿も含めてですね。非常に頼もしく聞いています。あの龍頭峡の話も出ていましたが、私もこの前龍頭峡に行きました。途中でね、人とそれ違つたりしますと非常にいいと思います。一つ問題は、携帯が入りませんね。水の中でいざという時に、なんか連絡されたい時に、ちょっとまずいのかなっていう気はします。老婆心ですね。中に入ってしまえばね。通じない所もあります。

○清胤委員

龍頭の滝とか、あの湯遊びぐらいのところが入らないんですよ。あそこ湯遊び楽しそうですよね。

○池野委員

活動するにも、どう取り組むかは、保育士の資質というかかかってきますね。そういう意味で、力をつけてもらおうと、是非お願ひしたいと思います。視点が違えば、必ず違う成果があると思います。よろしくお願ひします。

○橋本町長

その点、研修とかについていろいろと考えていただいているように聞いておりますが、いかがでしょうか。

○大野教育長

そうですね、森のようちえんに関しては、また明日から長野県の方に視察に入りますし、折に触れ、そういう研修があれば参加するように、実地研修というんですか、具体的な研修をしますし、そういう形で研修を進めているところです。とは言え、森のようちえんだけではないですね。すべての面で保育士として、子供たちの健やかな心を育むというのが目的ですので、そんなところでよくやっていると言う形で研修されております。

○橋本町長

ちょっとまた話変えさせていただくんですが、さっきからあのやっぱり大人の目があればいいという話がありましたが、その関係につながるかなと思って教育大綱の中にも書いたのがやっぱり町民の皆さんに教育にもっと関わっていただきたいという話を言ってたと思いまして、具体的な参加の方法として、今回教育ボランティア制度始めていただいたと思います。

色々なボランティアがあると思うところですが、今、本年度の頭ぐらいから募集を始めていただいて、また十数名という話も聞いております。やっぱりまだまだ参加いただける方は参加いただいたほうがより充実するかなと思うんですが、これまだ半ばだと思いながらこちらについてはいかがでしょうか。

○大野教育長

現在 20 名は超えたと思うんですが、まあ現状言いますと、ずっとボランティアとして関わって来られた方がたくさんいらっしゃるんですが、登録されてないというのが、現状です。やはり登録をきちんと、出来たらしていただいて何かあった場合も保険で対応できるということも勧めたいですし、そのことを、「こういう形で貢献してくださってるんですよ」「学校の中に入っていたいてるんですよ」「園の中に入っていたいてるんですよ」ということをまだこちらの方からの広報することによって、もうちょっと子供達に関わりたいという、そういう方もいらっしゃると思うので、その方へのアプローチになると思うんですね。なんとか登録の件数を増やして行きたいなと考えているところなんですが、逆に、登録するまでいかなくとも、「なんかやってますよ」と「登録してまで、なんかこう自分がやっていますよ。というのがちょっと嫌なんです」みたいな方もいらっしゃいますね。おそらく倍以上の方が関わっておられると思います。

○清胤委員

ただ、超高齢化ですよね、だからもうご自分を介護して欲しいって言う、ただ、どんなに高齢で、殆ど動けなくても、昨日うち彼岸法要だったんですけど、小さい赤ちゃんも参られてて、80過ぎのお年寄りもたくさん参られてて、そしたら赤ちゃんのところにみんなが寄っていって抱っこさせてって言って80過ぎて自分がよろよろしてるので、赤ちゃんを抱いた時はしゃつとしてます。

人間っていうのは誰かをね、大事にするっていう気持ちはすごくあって、ボランティアとして名乗り出るにはちょっと私も年だしと思ってらっしゃる方もいるんですけど、その場に来るとなんかこう力を発揮してくださるような、まだまだ多いんじゃないかなと思いました。

無線放送等で、今日、森のようちえん、どこどこ行きます。皆さん一緒に参加されませんか。みたいな。子供たちを見守ってくださいませんかとかいうような放送が流れたら、出てきてくださるお年寄りもあるのかなと。誘いあって。

#### ○河本委員

今のお話しみたいに、必要な時間帯とか必要な内容とかを知る機会って、今どういうふうにされているんですか。ちょっとボランティアっていうふわっとしてるんですけど、何月何日にこんなことやるんですけど、もし来られたらその時ちょっと登録してもらってという感じでもいいかもしない。私自身はあまり察知できていないんで。

#### ○大野教育長

まあ登録制度ですので、まず登録して、いろんな項目で、例えば読み聞かせとか登校補助とかというような項目の中で、登録をしていただいて、登録をしていただいた方に、こうこういうのが、小学校に必要なので、来てもらえないかという呼びかけをするというようなシステムでやっているんですよ。

#### ○河本委員

読み聞かせってすごい昔からですよね。

#### ○大野教育長

そうなんですよね。

#### ○河本委員

「私が行けないんだけど、誰かいける人はいないかな？」と、お母さんが探している姿を時々みます。自分が、穴を埋めないといけないので、周りのお母さんに声をかけている姿みてたんですけど、

#### ○大野教育長

そういうのも例えば登録して頂いてて、「ちょっとこの日足りないです。」という事であれば、こちらの方にお声がけいただければ、事務局の方から別の方、登録されている方にも、お電話することもできますのでそういう意味で登録していただくと便利だなと思うんですけども。登下校でもたくさん立たれていますよね。手をあげてる方もいらっしゃいますしね。

#### ○橋本町長

どの取組も、ボランティアの一つと思ってるんですけどね。「あれ」と「これ」とは違うと、もしか

したら思っておられる方がいるのかもしれない。

○大野教育長

登下校ってどこもあるんですけどね、なかなか登録していただけなくて。

○河本委員

登録してしまうともうずっと行かなきやいけないのかなって。いけない時にちょっと迷惑かけるかもみたいな逆な心理もちょっと働くかもしれないです。

○橋本町長

一方で、リタイヤした年代ぐらいから上の方って、今、本当におられないんじゃないかなと思ったりします。

その放課後子ども教室等も、すごく今、難しいと聞いているんですが、昔そうだった（リタイヤした年代ぐらいから上）方が今も引き続きやっていただいているんだけど、その方々の次の世代はどこへ行ったんだろうと言うか、何て言えばいいんですかね、実際少ないので、実は現役でバリバリやっていらっしゃるから、いないのかな、と思ったりしたわけですね。どうなんでしょうね。

○清胤委員

60才過ぎぐらいで皆さん働かれてますもんね。

○河本委員

今、定年の撤廃がずっと言われていて。65、71、75歳もいますし、現役です。

○清胤委員

世の中の仕組みが変わりましたよね。リタイヤしたらボランティアみたいな感じで。

○池野委員

私事ですが、筒賀小学校 17 人のグループで行っているんですね。次はどんな本を読もうかと言うことで一生懸命図書館で借りてきて、しっかり読み込んでいます。やっぱり生き生きしてますよね。そういう意味ではまあ一つの生きがいになってると思います。良い事だと思っています。ボランティアばかりしてですね、やってますから。

○河本委員

そういう方もネットワークで、つながっているんですか？

○池野委員

そういうネットワークあるんですよ。都合悪いときには、代わってもらったりね。

○橋本町長

元々は、どちらかというと、これまで経験してきたこととか、例えば学校に来ていただいて総合学

習の時間内にちょっと披露いただいて、みたいなイメージを最初は思ってたんですが、この今のその見守りも含めて、いろんな切り口というか、ご支援いただける所って色々あるなあというのはちょっと改めて思っておりますので、引き続き働きかけをしていかなきやいけないし、私もちょっと次の広報で少し触れさせていただこうかなと思ってるんですが、ご参加いただければそれでやっぱりまちづくりにも繋がるかなと思っておりますので。まだまだそういう意味じゃ、知られてないわけじゃないでしょけど達人がたくさん町内におられるんじゃないかなというふうに思いながらですね。

○清胤委員

人間観として何か持っていると思うんですよね。今モリカカードで、歩いたら 10 円とか私も携帯持ち歩いてるんですけど、あれでボランティアも、なんかそういうのちょっと、こう 100 ポイントゲットとか、あったら励みになるのかもしれないなと思ったりもしましたよ。

○橋本町長

確かにボランティアポイントって、ちょっとアイディアなのかなと。あれだと高くなくても多分いいんですよね。歩いてるとあれ 10 ポイントぐらいでしょ。つくの。だけど、つくと思えばそれ目指してやっぱり歩いたりするので、金額がどうこうっていうよりは、ポイントがつくということが確かに続けようかとか。

○清胤委員

なんか一つの励みになって、続けようかとかやってみようかとか、ならないかな。どうでしょうか。

○橋本町長

ちょっと考えさせていただいて、考えてみていただいて。

○大野教育長

一方、問題なのが、登録された方から登録したんだけど待ってるんだけど、声がかからないんだというようなことがあるんです。ですからその辺のところが難しいです。

「私はこういうことで協力したい」というようなことが学校、園との要望とマッチングすればいいんですけどもマッチングしない場合もありますし、登録者が増えれば増えるほど、そういうことが増えてくるのでせっかく登録していただいたのにというようなことも出てくるので、そこら辺りの調整が難しいかなと考えるところです。

○清胤委員

違う分野なら草刈りならすぐにお願いしたいです。

○河本委員

年齢層というのは、いくつくらいの方が多いですか。

○大野教育長

年齢層高いですよ。もちろん。ただ、ほとんどご高齢の方かなと予想をたててきたんですけども、

意外と、40代とか50代の方もご登録いただいている方もいらっしゃいますので、そういう方は以前からねどんどん入り込んで、貢献されている方なんですけども、そういう裾野が広がってくれれば今まで経験がない方も、ターゲットだと思うんですよ。まずは、30代40代50代の方につないでいってそしてまた下の世代につないで、持続可能な形になっていきますので、しっかりアプローチしていくことが大事なのかなということは考えています。

#### ○河本委員

部活動とかも人数がいたので、若い方はそういう年代の方もおられたら大人数で出来る部活動に参加していただけたら嬉しいなと思うんです。

#### ○大野教育長

実は、それがいらっしゃるんですよ。だから、これからマッチングと思うんです。

30・40・50代の人たちの活動、流れというか社会の流れをしっかりと見極めながら、どういう風につないでいくか、コーディネートして行くかということが要求されるんじゃないかなと思います。

コーディネートって、まだ成熟していない段階ですので、今のところは教育委員会の事務局が担っていくことになりますけど、その辺はやがて地域の方に、やっていただくことで本物になっていくし、根付いていきますので、そのところが課題ですし、それが課題だなというような形で一緒にやって行きましょうという、地域の方からも温かいメッセージいただいているので、私の手応えとしては予想していたよりも早く展開するかもしれないなというようなことを感じている次第です。

#### ○河本委員

なんとなく教育活動の一環なので手伝うにしても、手伝い方、関わり方について、学校がどこまで手を出してほしいと考えているのかとか、がっつり教える人もいるかもしれないし、そこら辺がどういう現場サイドの雰囲気なのかなと思う。コミュニケーションは取れてるのかなとか、不安を抱く方もたくさんいるんじゃないかなと。

#### ○清胤委員

学校側の方が、保護者やそのおじいちゃん、おばあちゃんを把握してますよね。あの方は、ああいうお仕事で、こういうことがおできになるんじゃないかなっていうのがわかると思うので、こういうことお手伝い願えませんかって学校側からお願いすることも必要ではないですか。

お手伝いしていただける方を、逆にボランティアとして登録してもらうっていうこと。学校の側からこういうことお願いできませんかとPTAを通してとか、一本釣りじゃないけど、一人ひとりにちょっとお願いしたりとか。

保護者だった時に国語の時間である教科書の読み方っていうのを指導してほしいって言われて、長男のときも次男の時もそれぞれ授業にちょっと参画させていただいたことがあって、私も楽しかったし先生にもちょっとでもお手伝いになればと思いましたしそういうのは別にボランティアとかでやった感じまあもちろんお給料はもらってないですけど。

だからそんな風にこう先生から声かけていただいて、じゃあ分かりました何日なら行けます。みたいな。学校との刷り合わせ、そんな方が早いんじゃないですかね。

○大野教育長

勿論そういう形でやってきたわけなんんですけど、なかなか学校の方もアンテナが高くないので、地域の方がどういう経験があるか分かってない。お互いだと思うんです。学校側から見つけていく場合もあるし、地域の方に登録していただいてまた学校から声をかけて行く場合もあると思いますので、調整していくということが大事じゃないかなというふうに思います。お互いに頑張って一緒にやっていきたいなと思っているのにマッチングしない場合もあると思います。

○小田委員

ボランティアは、学校、園所だけで児童クラブや放課後教室に出向いて行ってというのは出来ないんですかね。

○大野教育長

今のところ制度としてはそういう形ですけど。

○小田委員

児童クラブや放課後教室でも教えて得意なことを地域の人が教えてくれたりっていう時間があったりしても。最近ないんで。

○池野委員

以前はね、放課後児童クラブで、例えば、バドミントンとかゲートボールとかね、総出でそういう時間ありました。

○清胤委員

竹とんぼつくりとかね。

○大野教育長

今も、全然無いことはないんですけど、折に触れて夏休みとかやっていただいたりしているんですけど、ちょっとコロナでストップしたんです。

そういう意味でも、登録していただいていると、学校が例えば児童クラブでこんな事するんですけど、来ていただけますか。というようなことが、事務局からお声掛けもできますし。とにかく本町は人材の宝庫で、さらに教育大綱の3つの柱は、自然と、人と、文化、柱ですからね。

○橋本町長

一つ、どうやって参加いただとかというのがあるんですがコーディネートの難しさというのもあるのかなと思っていまして、そこらへんも学校側もそうは言ってもなかなか、やっぱりコーディネートは、大変な作業だと思うので簡単には、入れられないのかなというか、そこらへんでまた教育委員会の方でも少しフォローしていただきながら、地道に、この取り組みを進めていく必要があるのかなと思ったりするんですけど。

話が変わるんですが、うち子供がまだ小学生がいるんですけど、水泳が苦手なんですよね。で、水泳は、学校でも中々習えないというか、泳ぎ方をこうやっぱりすごく習うの難しいみたいで、結局、誰か

泳ぎが上手く、教えてもらえる方を随分探して、結局、温井でクランピングやってらっしゃる若い方につながって教えてもらうことになった。それもただでというわけにはいかないんで、少しお金払ったんですが、町外からでも若い方で少しづつ入ってきておられる会社とかもあるんですよね。だから、もちろん今までおられて経験豊かだった方もおられるんだけど、そうじゃないもう少し見方を変えると新しい会社で働いてる若い人たちちょっとずつ増えているので、そういう方々にもご協力いただくことも一つの方法で、そうなるただでは難しいので、ボランティアあるいは、きちんとお金を払ってやっていただくこともいいのかなと思ったんですが、まあそれは余談でございますが。ありがとうございます。地道にやっぱり声をかけていくしかないのかなという気も致しますけども。

#### ○清胤委員

ぱっと進めようと思う時には必要なことかもしれない。人を集めるには。

#### ○橋本町長

結構、時間がたってしましましたが、改めて一応私がやっていきたいとにかく二つは聞きたいなと思ってたのは、森のようちえん、ボランティア制度ですが、それ以外の今の話で言うと、対話と協調学習のこともありまして、あるいは体験や経験の機会を増やすということになったと思いますが、それでも結構ですし、あるいは教育大綱にはいっていないこともいいんですがこの際ちょっと聞きたいことがありますたら、お聞かせいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

#### ○小田委員

今、保育所から中学校まで大体同じメンバーで、クラスが上がっていきます。今年からは3校合同授業とか何回かされているみたいなんですけど、もうちょっと、多くの子ども達と接する機会というのを増やしていただけたら、その3校合同であったり、北広島町でもあったり、昔はリーダー研修があつて北広島町の子どもとの研修があったとかっていうのも聞いたりしたことがあったので、同じメンバーずっと十何年過ごすことになるので、他のメンバーとのふれあいいうところも増やしていただけたらいいなと感じております。

#### ○大野教育長

I C Tの機器も使えるので、全国、世界と繋がれるので、ぜひとも出来たらと思ってるんですけどなかなか学校現場も忙しいので、是非活用していきたいですね。

#### ○橋本町長

森のようちえん繋がりじゃないですが、園、所ではそういう取り組みが広がってきている。それは嬉しいし、逆にその効果みたいなことも、まだ早いんですけど、どう影響してきているのか見ていただきたいと思いますね。それとは別に小学校の方にも、少し波及できないかなと思ったりしてるんですけど、先の話かもしれません。

#### ○清胤委員

小学校の校歌がありますよね。あれは声高らかにと歌うんですが、そこかしこに自然の情景が描かれているんですけど、そこに自分の学校の歌に出てくる山とかに登ったことがないという子が物凄く多く

て、どこにあるんだとか勿論聞いてことない。だから、そういうところに遠足でもくるとか、森のようちえんの波及行事ではないけど、小学校になって足腰を鍛えられて、登れるんじゃないかと思ったり、せっかく校歌を歌うんです。その校歌の内容の地名とか山とか登ったことも行ったこともないというのが凄く多い。

○橋本町長

そうですよね。

○大野教育長

先ほど体験的な学びというのが町長から出たんですけど、学校の方で、体験的な学びを進めているところなんんですけど、体験的な活動と子どもの学力というところの繋がり、今回も全国学力学習状況調査結果が明らかになってきています。ちょっとそこのところ説明をお願いします。

○小坂主幹

全国学力学習状況調査から、自然の中で遊ぶことや自然観察をした経験がある生徒ほど、全ての教科において、正答率が高いという調査結果がでました。

○橋本町長

安芸太田町ですか？

○小坂主幹

安芸太田町の生徒でやりました。

○大野教育長

それはどうしてなんですか。

○小坂主幹

それは、まずは、今の学力は、生活と関連付けるという力が求められていて、そういった問題が出ています。今回もう一つクロス集計して、「自然の中で遊ぶことや自然観察をした経験」がある児童生徒ほど「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、活かしたりすること」ができる傾向があることが分かりました。そういう傾向が分かったので、学んだことが関連づけて、生活と繋げられないと生きた知識にならないので、自然体験は大切なんじゃないかと思います。

○橋本町長

出来ればこれ来年・再来年の結果をまた見ていただきながら、良い結果だと思いながら、ありがたいなと思います。

○大野教育長

おそらく、体験することによって、探求心が生まれてくると思うんです。自分で課題を見つけて、そこに向けて、なにかを解いていくこうという、探求心に繋がると思うんです。これが学びたいということ

に繋がっていきます。そのところが、大きいと思います。まさにそのところが今、文科省から出でている「令和の日本型学校教育」が求められているところでして、まさにそれが、本町の教育大綱の自然、文化、人と全く合致するんですよね。そのところを、どうしていくかということが、これからの中学校教育の課題かなというところですね。

○池野委員

私の頃は、自然体験というのは、当たり前で、山いったり川行ったり、いろんな事で上級生に教えられたり、時には、懲りさせられたり、色々しましたけど、自然体験思考がないとなかなか出来ない。体験できない。

○清胤委員

都会ではない、自然というものは安芸太田町には、いっぱいあるんです。

○河本委員

「色々こうやりたいです。」っていう部分に予算を付けていただき、サポートをお願いします。

○橋本町長

しっかり受け止めさせていただきます。

一方で、まだまだ始めたばかりなので、早急にはいかないにしても、こういう取り組みをしたことによって、何が変わってきたかというのもしっかりと、こころして、させていただきながら、進めていきたいなと思っております。

先ほどの親御さんの感想なんかも引き続き確認をしていきたいなと思いますし、森のようちえんなんかもあまり話を聞いていないという声よりも、どちらかというと是非参加したいという声が多いというふうに聞いておりますので、少し安心をしているんですけど、そういったところも引き続きみていただきながら、進めていけたらなと思っております。

議会の一般質問で、森のようちえんの取り組みについて、質問をいただいたんです。某議員さんだったんですが、何をやったら森のようちえんが達成出来たことになるんですか。という話で僕、直接答えなかつたんですが、今思うと、正に安芸太田町版の森のようちえんをつくろうという事で、今回愛称も作っていただき、地域、地域に合った、森のようちえんに限りませんが、地域、地域に合った取り組みがあるんだろうなと思います。

それを追求していこうと思ったらたぶん終わらないと思うんです。いつまでたっても完成はないんじゃないかなと思います。

一方で、今回もしかしたら、全部の園から認証は届け出ていただいて、もしかしたら、今年中に認証になる可能性もあります。そこで、さつきから言ってますが、ゴールがないんだけど、本町の園が全部森のようちえん認証とったんだよというのは、それはそれで凄く県外も含めて、アピールに出来る一つの要因になるかなと思っていまして、だから、ゴールはないんだけど、積み重ねていきながら出来たところはしっかりとアピールさせていただき、それを見て、「是非、安芸太田町で、やっぱり子育てしたいな」と思ってもらったら、そういう好循環を生み出していただければなと、思っております。

丁度時間が来たようでございますのでこれぐらいにさせていただき、事務局にお返しをさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○淺田課長補佐

ありがとうございました。それでは、ちょっと私事なんですけど、先ほど清胤職務代理さんがおっしゃった、校歌の中に地域の情景とか風景が含まれている、というお話し。自身もすごくそう思うところで、加計小校歌で言いますと、「五輪山頭 雪ふる朝」とか、「園の月が瀬 花ちる夕」、「三つの川 波 淀めるほとり」これは滝山川、丁川、太田川のことを歌ってると思うんですけど、まさに地域の風景、情景が浮かんでくる歌詞で、本当そうだなと思いながら聞いていました。加計小出身として。

○橋本町長

五輪山登っちゃった事あるんですか？

○淺田課長補佐

それが、小学校の遠足だったかな、五輪山に毎年登ってたんです。加計小。今は登ってないですね。加計小は。

○橋本町長

手つかずの山になっちゃったから。

○淺田課長補佐

すみません。そんな事を感じながら体験をしていたなあとと思いました。

それでは、総合教育会議を終了させていただこうと思いますが、あらためまして総合教育会議というのは、もちろんご存知だと思うんですけど、首長と教育委員会の協議、調整の場でありますので、今後も今年度第2回、開催出来たら良いなと思っております。またそういった、テーブルができるような内容とか、協議の内容等ございましたら、また事務局の方へ伝えていただければと思います。それでは、以上を持ちまして、第1回の令和7年度総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

(午後13時58分 閉会)